

地域応援団本部発行

原野谷学園だより

12

平成29年6月12日
原野谷学園事務局（原谷小学校）
TEL 0537-26-0005

原野谷中学校区に掛川市指定研究

指定研究テーマ「小中一貫教育」（H29～31年度の3年間）

平成29年5月29日（月）に原田地域生涯学習センターにおいて平成29年度の第一回代表者会が行われました。

主な内容は6月21日（水）の原野谷学園「総会」に向けての検討会でした。掛川市の学園化構想は今年で5年目に入ります。今回の代表者会には市教委の教育政策室担当者も出席しました。

代表者会の中では、原野谷中学校区に本年度より3ヶ年間の掛川市指定研究「小中一貫教育」が行われることになった事について、それぞれの関係者の立場からの意見交換が出されました。



地域応援団本部（原野谷学園「代表者会」開催）5月29日

小中一貫教育とは何なの

掛川市は、「中学校区学園化構想」として学校に地域の教育力を取り込み、市民総ぐるみで地域とともにある学校づくりを推進しています。学園内の子どもたちを育てるために、縦のつながりを意識した「保幼小中連携教育」を強化してきました。この「学園化」は、掛川市の財産であり、今後さらに学校教育の質を向上させていくためには、学園単位での取組をさらに充実させ、「小中連携教育」から「小中一貫教育」にステップアップすることが重要と考えています。（掛川市小中一貫教育推進基本方針「はじめに」の一部抜粋）

【小中一貫教育の定義】（H28年12月 文部科学省より）

小・中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的に行う教育のこと。

H29年度 原野谷学園新会長に久米正雄氏（原田地区区長会長）が就任



本年度より新会長になりました久米正雄です。5月29日に「原野谷学園」の代表者会が原田学習センターで開かれ、今年度の事業がスタートしました。今年から小中一貫教育の研究が始まります。いろいろな意見が出ました。私は「学校と地域の連携」がこれからはとても大切なことだと感じました。しっかりと地域の声を反映していきたいと思います。原田地区では、今年も合同運動会が行われ、地域と学校が一体となり互いの絆が深まり、感動の多い運動会となりました。

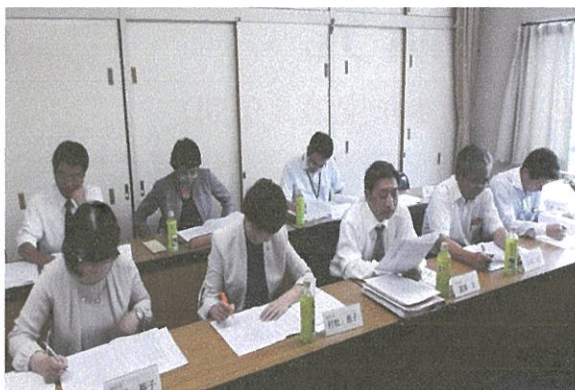
H29年度「原野谷学園」事務局校に阪本敦宏校長が就任



原野谷学園では、地域でのあいさつやボランティア活動、学校防災と地域防災の連携がなされるなど、地域と一体となって様々な活動がなされています。現在、教育改革が進行しており、園や学校だけでは対応が困難になってきています。本年度も子どもたちの教育が充実していくよう、諸活動への御理解と御協力をお願いします。また、本年度から3年間、原野谷学園の実績を基に、小中一貫教育研究も進めていきます。(原谷小学校校長 阪本敦宏)



原野谷学園「代表者会」の様子



原野谷学園「代表者会」の様子

今年度、原野谷学園の副会長にさせていただくことになりました原谷小PTA会長の深田です。原野谷地区は、自然が豊かでのびのびと子ども達が過ごしています。本年度からの小中一貫教育を通して、この原田・原谷地区の子ども達が、地域の歴史を学んだり、地域の行事に参加することで郷土愛を育み、地域の良いところを更に伸ばしていけるような関わり合いができるよう、精一杯務めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。(原谷小PTA会長 深田裕子)



平成29年度原野谷中学校区学園化構想研究事業（第1回全体研修会）

本年度は地域の皆さんに授業の一般公開をします・・・どなたでも中学校に関心のある方は気軽においで下さい

1 日時 平成29年6月21日（水）
13時30分～14時20分

2 会場 原野谷中学校
(各教室等)

(原野谷中の授業見所ポイント)

原野谷中学校では子どもたちが、相手の考えや思いを理解し、自分たちの考えを適切にまとめたり、相手を意識して伝えたりする生徒や、課題解決に粘り強く取り組む生徒の姿をご覧ください。下記の写真は最近の原野谷中の生徒たちの授業の様子です。



ICT機器を活用しての授業風景です。真剣にTV画面の説明を見つめる生徒たち。



先生の問いかけに多くの生徒が活発に反応している。

※ 原野谷中学校からのお知らせ（地域の人材活用授業）

- 1 キャリアセミナー 平成29年6月29日（木）講師 鈴木克年氏 題材「庭師の家業3代目」 外5講座を予定
- 2 全校道徳教育 平成29年7月24日（月）講師 小澤利行氏 題材「平和教育——戦後70年を語る」

地域応援団本部発行

原野谷学園だより

13

平成29年9月1日

原野谷学園事務局（原谷小）

TEL 0537-26-0005

戦争は絶対にやってはいけない！ 小澤利行氏が原谷地域の戦争体験談を語る



7月24日（月）に原野谷中学校「全校道德」の授業で小澤利行氏（本郷西区シニアクラブ会長）の講話がありました。内容は一昨年度にシニアクラブで刊行した戦後70年記念冊子の中から「戦争の記憶を語る」

と題してお話でした。小澤氏は冊子に寄せられた証言を次々と生徒たちに紹介しました。日本国はすでに戦後70年以上の歳月が過ぎました。戦争体験者は高齢化しており年々減少の一途です。ところで、現在の国際情勢は毎日のように世界各地で紛争が巻き起こっています。日本国も再び戦争に巻き込まれるのではといった不安な時代になってきました。その様な中、原野谷中学校から2人の生徒が8月6日広島で行われた平和記念式典（掛川市中学生派遣事業）に参加しました。

小澤氏からは生徒の皆さんは戦争の不幸と平和の大切さをこのような平和式典などを通じて改めて感じてほしいと語っていました。講演会後の生徒からは「戦争をなくすためには、まず自分たちが戦争についてきちんと理解をすべきである」などの感想が聞かれました。

戦争体験談はやはり次世代に語り継がなければいけない

本郷西区シニアクラブでは一昨年に戦後70年記念冊子「戦争の記憶を語る」を刊行しました。今回、原野谷中学校でこの事を講演する機会を得ました。戦後70年余が過ぎ、中学生には時代変化のギャップが大きく、話が正確に伝えられるかと心配でした。

講演後の生徒感想文を読ませていただきました。正直、感動しました。今の若者たちは「戦争に無関心」と言われていますが、全く違うと感じました。「生と死、悲惨、恐怖、食糧難、貧困」など戦争時代の事は、やはり話さなければ何も伝わらない事が感想文から分かりました。戦争体験者は激減しています。今、語られなければ伝わりません。改めて、平和への願いを強く思いました。

（小澤利行 本郷西区シニアクラブ睦会会長）



講演会後、報道関係者からの取材を受ける小澤利行氏

【裏面に続く】

小澤利行氏の「戦争の記憶を語る」を聞いての生徒感想2題

① 原田や原谷でも戦争で死者が出ていた

僕は戦争は大都市だけで起こっていたものだと勘違いしていました。でも実際は、原田や原谷でも死者が出ています。もっと戦争のことを理解して、これから僕たちが大人になっても戦争を起こさせないようにしたいです。今日は貴重なお話をありがとうございました。

(3年A組 杉浦伍航)

※ 杉浦君は今年広島で行われた平和祈念式典に掛川中学生派遣事業として参加しました。又、掛川市の平和祈念式典にも出席して発表をしました。

② 戦争の怖さを改めて知る機会になった

私は戦争の話は、本とかひいおばあちゃんの話を知っていたので少しは知っていた。この原谷の土地で、爆弾が投下されたり汽車が狙われたりして10人も人が亡くなったことを知って、なんかもっと戦争のことを感じたというか、より怖くなりました。それにその戦争の怖さを自分が今まであまり知らなかったこと、知っている人が減ってしまっていて、これは伝えて行かなければいけないと思いました。戦争の怖さを改めて知る機会になって良かったです。(2年B組 守屋美紗希)

「かけがわ中学生議会」が開催 議長は原野谷中の齋木大地さん 松井市長に「原野谷中校舎老朽化対策」や「小中一貫教育」を一般質問

8月3日(木)に「かけがわ中学生議会」が掛川市議会議場で行われました。原野谷中学校からは齋木大地さんと石川鈴菜さんの二人が中学生議員として参加しました。

原野谷中生からは「本校校舎は大雨の後などは雨漏りがして、バケツや雑巾をその場所において置く状況である」といった切実な訴えがありました。松井三郎市長からは「修繕工事をしながら施設の老朽化対策をしていく」と、理解を求める答弁がありました。



中学生議会を傍聴して

本校からは、齋木議員と石川議員が出席しました。堂々と一般質問や追加質問を行い、校舎老朽化対策や小中一貫教育について提案してくれました。貴重な経験になったはずです。

二人の議員の活躍もあり、校舎の雨漏り改修工事が実現しました。また、齋木議員は議長を務め議場内の一番高い議長席から、「市長、松井三郎くん!」と、落ち着いた声を響かせていました。この経験を生かし、掛川市の未来を考え、将来の地域を支えてほしいと思いました。

(原野谷中学校長)

中学生議会の議長を経験して

市議会議場の中に入ったときに、議場の中は静かで重い空気が漂っているように思いました。

本物の議員の皆さんでも議場の中に入るときは、心が引き締まり、緊張するそうです。議長席に座ると全員の視線が僕に集まりとても緊張します。しかし、聞き取りやすいように、大きな声でメリハリをつけて話しました。その間ずっと集中し続けることがとても大変でした。それだけ大変な仕事なんだと分かりました。

(3年A組 齋藤大地)

地域応援団本部発行

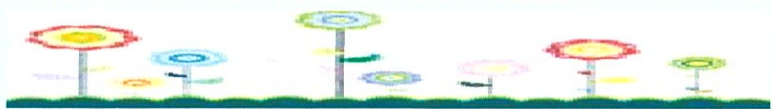
原野谷学園だより

14

平成29年10月1日

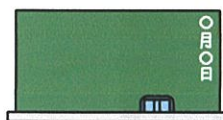
原野谷学園事務局（原谷小）

TEL 0537-26-0005



原野谷学園の夏季研修視察（8月3日） 沼津市立静浦小中一貫学校（施設一体型校）

原野谷学園の教職員と地域代表の視察者一同



静浦小中一貫学校を視察見学して

8月3日に原野谷学園内の園・小・中学校の教職員と地域代表者及び市教委職員の45人程で沼津市立静浦小中一貫校を研修視察してきました。

視察校は平成26年4月に開校した施設一体型の小中一貫校でした。H29年度の全校児童生徒数は258人です。静浦地区では10年ほど前から少子化に伴い児童生徒が激減し小学校での複式学級の発生が懸念されてきました。静浦地区の自治会やPTAから小中一貫学校の設置要望が出されて検討会設置の必要に至るなどの説明を伺いました。

ところでH29年度の原野谷学園内の小中の全児童生徒数は現在403人です。

子どもたちの100%が学校は楽しい

去る8月3日、沼津市立静浦小中一貫校の視察に参加させていただきました。県内最初の小中一貫校ということですが、今までの公立学校では見られない余裕と開放感のある学校だと感じました。開校するまでには十年ほど、地域の人達との様々な協議をしてきた準備期間があったということですが、現在学校に通っている子どもたちの100%がアンケートの中で楽しいと言っていました。

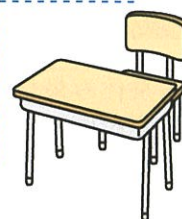
この事は小中の学校が統合して良かったということではないかと感じました。

（原野谷学園会長 久米正雄）



9学年ある職員室

【裏面に続く】



静浦小中一貫学校を視察見学して感じたこと2題



屋上に設置されたソーラパネル

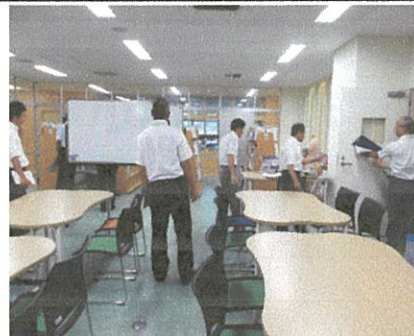
① 静浦小中一貫学校を視察して感じたことは、静浦地区と原野谷地区は津波の問題を除けば、ほぼ類似している。課題は少子化や児童生徒の減少、校舎の老朽化等々である。視察校の施設見学をして感じたことは子どもの発達に応じた校舎の環境設計を図ることである。さらに、単学級でなく、2学級以上となる学校の適正規模化を目指していくことである。子ども育成支援協議会とまちづくりが連携を取り合って、この原野谷地区が魅力ある小中一貫教育となるよう研究推進を進めていきたい。(原野谷学園副会長 竹下文博)



吹き抜け型の研修会場



教室に隣接した多目的な廊下



中央部の各階ごと特色ある図書室

② 静浦小中一貫学校は、教室配置や水道の高さなど子どもの成長段階に合わせて工夫された造りになっており、従来の校舎よりも教育効果が非常に期待できる魅力を感じる校舎でした。少子化や災害の危険があるという課題をクリアしながら、地域の子どもたちを育てていく学び舎を地域住民と十分な協議を続けて完成していった経緯は、原野谷学園の未来を考える上で大変参考になりました。今回、地域代表の方を含めて学園全体で視察できたことも素晴らしい成果の一つであったと感じます。(原野谷中学校教頭 柴田勝明)

夏草が一掃・・・「原野谷学園」の草刈りボランティアが小・中で大活躍

今年も学校開始期のPTA奉仕作業がありました。原谷小では毎年、草刈り奉仕作業に参加して下さるポッポ屋の山崎智行会長からあいさつがありました。又、原野谷中では、作業開始前にポッポ屋の柴田清一さんが玄関前の二宮金次郎設置に携わったお話を披露して下さいました。今年も猛暑の中での草刈りでした。ボランティアの皆さんありがとうございました。



原谷小学校



原野谷中学校



原谷小の作業始めと終了後の風景



原野谷中の作業始めと終了後の風景

夏休み最終の土曜日、PTA奉仕作業がありました。佐藤コーディネーターの声掛けにより、ポッポ屋原谷会・区長、副区長様・学習センター長様・まちづくり教育・文化部長様などのご協力をいただきました。膝丈ほどに伸びた雑草を草刈り機で刈っていただき、子どもたちも安心して学校生活を過ごすことができます。今後もよろしくお願いします。(原谷小学校教頭 鈴木恭子)

地域応援団本部発行

原野谷学園だより

新年号

15

平成30年1月1日

原野谷学園事務局（原谷小）

TEL 0537-26-0005

原野谷中学校区に新たな学園づくり 第1回地域検討委員会が開催（12月11日）

委員長に山崎保寿氏

平成29年12月11日（月）に原野谷中学校において第1回「原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会」が開催されました。

掛川市は、本年の6月に策定した「掛川市小中一貫教育推進基本方針」に則り、小中一貫教育を推進するに当たり、学校・家庭・地域代表・保護者・学識経験者・市長部局・市教委が一体となり、これからの学校の在り方を検討するため、原野谷中学校区に「原野谷学園新たな学園づくり地



域検討委員会」を設置しました。**新たな学園づくり地域検討委員会の会議風景（原野谷中）**

委員長には山崎保寿氏（学識経験者＝静岡大学教授）が就任されました。検討委員会では初めに横井指導主事（市教委）から小中一貫教育が求められる背景として人口減少・少子高齢化の到来等の激変する社会の様子を全国の状況も踏まえた具体的な話がありました。

○意見交換会で出された主な意見4点

その後、地域検討委員による意見交換が山崎委員長の司会で進められました。園・学校関係者や地域関係者そして園・学校の保護者から出された意見交換の主な意見内容は次の4点です。

- ①児童・生徒数の減少が深刻である。
- ②小中一貫教育は原野谷地区全体で考える。
- ③小中一貫教育は学校で効果が出てきている。
- ④有意義な新たな学校づくりを目指していく。



小中一貫教育の概要説明をする横井指導主事

お知らせ

原野谷学園「第1回地域意見交換会」の開催

日時 平成30年1月17日(水) 午後7時から

会場 原谷小学校 多目的室

内容 小中一貫教育を推進するための新たな学園・学校づくりの在り方の検討を原田・原谷地域の全住民を対象にして行う第1回目の地域意見交換会です。



地域検討委員の全体写真

☆ 原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会委員

(敬称略)

番号	所 属	氏 名	番号	所 属	氏 名
1	学園経験者	山崎 保寿	11	原野谷中H29PTA保護者	杉山 喜啓
2	市議会議員	草賀 章吉	12	原谷地区代表保護者	鈴木 映美
3	市議会議員	野口 安男	13	原田地区代表保護者	天野 唯
4	子ども育成支援協議会長・原田地区会長	久米 正雄	14	こども広場あんり保護者	古山 保味
5	原谷地区まちづくり協議会長・原谷地区会長	竹下 文博	15	こども広場あんり保護者	山本 千恵
6	原田地区まちづくり協議会長	両角 一夫	16	地域コーディネーター	佐藤 収一
7	株式会社山田	山田 珠一	17	原谷小学校長	阪本 敦宏
8	池島フーズ株式会社	山本 安幸	18	原田小学校長	山田 卓
9	原谷小H29PTA保護者	深田 裕子	19	原野谷中学校長	深澤 大
10	原田小H29PTA保護者	鈴木 麻美	20	こども広場あんり園長	村松 恵子

「こども広場あんり」の稲刈り体験活動(10月4日)

いっぱい稲刈りができたよ。これが「ごはん」になるんだね。

原野谷学園の稲刈りボランティア指導者の平尾正康さん・鈴木喜久治さん・鈴木浩司さんの指導によるあんり園児たちへの稲刈り体験が10月4日に晴天のもとで行われました。あんり園の園児たちは全員、順番で一人5束の稲を刈り込んでいました。

なかなか腕に力があるので、指導員先生の手助けを借りながら頑張っていました。



子どもの活動様子を撮るお母さんたち



開始前のお話をする細谷の平尾正康さん

平尾正康さんは稲刈り後に、あんり園児たちの活動を見て「あんり園では田植えから稲刈りまでの農業指導に関わっています。そして自分たちで収穫したお米を給食で喜んで食しています。温暖な田園地域であるこの原野谷の子ども達の中から1人でも多くの農業に夢をもって活躍する子が出てきてほしいです。」と熱く語ってくれました。